

第1回整備部会の報告

令和5年6月

高知龍馬空港・航空ネットワーク成長戦略検討会議

1. 新ターミナルビル整備に係るこれまでの検討経緯

平成30年度	第1回検討会議 (H30/5/8)	<ul style="list-style-type: none"> 高知龍馬空港を取り巻く事業環境、空港施設の現状の共有
	第2回検討会議 (H30/8/8)	<ul style="list-style-type: none"> 空港施設の機能強化に関する現状と課題の掘り下げ、他空港事例の共有
	第3回検討会議 (H30/11/16)	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備計画の方向性（必要な機能や規模のイメージ）の確認
	第4回検討会議 (H31/2/13)	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備計画（ターミナル内部の配置案、動線等） 基本構想・基本設計・実施設計に向けたスケジュールの確認
令和元年度	第5回検討会議 (R元/9/12)	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想(案)の中間報告 (国際・国内供用ターミナルビル、延床面積約6,000m²、概算整備費用約42億円)
	第6回検討会議 (R2/1/22)	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想(案)の報告・承認 (国際線専用ターミナルビル、延床面積約4,000m²、概算整備費用約29億円)
令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、世界全体の航空需要の回復は令和6(2024)年頃になると関係団体が示していることなどを踏まえ、整備については一旦立ち止まり、再開の時期を見定めるべきと判断 設計予算を減額補正 	
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 水際対策の大幅な緩和（R4.10.11）に伴い、地方空港での国際線の受入が再開 国際航空運送協会（IATA）が、国際旅客需要は令和7年までにコロナ以前の水準に回復するとの見通しを発表 ⇒国際旅客需要が拡大するタイミングを逸しないよう新ターミナルビル整備の検討を再開 	
	第7回検討会議 (R4/12/20)	<ul style="list-style-type: none"> 新ターミナルビル整備に向けた現状と課題 新ターミナルビル整備部会の設置及び今後のスケジュール
	第1回整備部会 (R5/1/27)	<ul style="list-style-type: none"> 第7回高知龍馬空港・航空ネットワーク成長戦略検討会議の報告 整備規模、整備手法、整備の再開時期等の検討（意見交換）

2. 第1回整備部会（R5.1.27）のとりまとめ

➤ 主な意見

- ・ 県民の理解を得るためには、事業規模も論点となる。必要最小限の施設として、どのような施設が整備できるか検討できればよい
- ・ 整備完了時期としては、万博を目指したらよいのではないか
- ・ 国際線が週1～2便利用し、それ以外の時間帯は国内線に利用できる施設等、現ターミナルの狭隘解消にも繋がる方向で検討できればよい

等

⇒とりまとめ

「段階的整備（まずは簡素な施設）」 「万博狙い」 「内際共用」

<参考：第7回高知龍馬空港・航空ネットワーク成長戦略検討会議（R4.12.20）>

■主な意見

- ・ まずは、仮施設を整備し、その後、ターミナルビルを検討
- ・ 必要な機能を果たせるコンパクトなターミナルビルを検討
- ・ リスクを軽減するために、内際共用とするという選択肢も含め検討